

医療法人 曙会



あけぼの会だより

News from Akebonokai



賀春



昨年、自然の猛威が各地でみられました。6月大阪地区での地震に始まり、7月西日本豪雨、各地で40℃を超える気温が観測され、9月には台風21号による停電、さらに北海道での地震等、「地球温暖化現象」の現れとも言われていますが、災害に遭われた全国各地の皆様に改めてお見舞い申し上げます。

さて、私ども曙会は、この塩屋の地で病院を開設し医療法人として60年を迎えましたが、この間地域の皆様方の支えをいただき、近隣の病院・診療所の先生方と連携を取って参りました。少子・高齢化社会がさらに進み、和歌山市の人口減少に伴って医療だけでなく、介護・福祉問題の必要性がより高まっています。

現在、和歌山県の地域医療構想の検討がなされ、各病院の医療体制の方向性が問われ、地域包括ケアを中心とした「医療・介護・福祉」の充実を進めているところです。皆様方のニーズに応えるべく、昨年より新たな診療科（血管外科）を開設し、本年春からは、消化器外科・乳腺外科の開設も予定しております。

今後とも地域の皆様方のご要望に沿えるよう、職員一同頑張る所存でございますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



新たな年を迎えて

理事長 山本好信

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、希望に満ちたよき年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

インフルエンザに備えて

小児科医 吉益 哲



流行時期

季節性インフルエンザウイルスにはA型とB型があり、A型は毎年1月下旬から2月上旬、B型(隔年流行が多い)は3月上旬から中旬にかけて流行のピークを迎えます。

症状

①突然の発症 ② 38℃以上の発熱
③上気道炎症状(咳、鼻水) ④ 全身倦怠感などの全身症状が典型的症状です。
高齢者では微熱にとどまり、①～④の典型的症状を呈さないこともよくあります。

合併症

小児では脳炎・脳症、異常言動、高齢者では肺炎の合併に注意が必要です。
異常言動は発熱後24時間以内の発現が多く、発症初期は注意して様子を見ましょう。

診断

鼻腔から鼻汁を採取して、迅速診断キットで判定します。
結果は5～10分で分かります。
発熱直後のウイルス量が少ない発症初期には診断できず、24時間以上経過して陽性になることがよくあります。

予防

ワクチンを接種しても結局罹ってしまったとよく言われますが、接種をしたほうがしないよりも感染を防げる可能性が高く、また罹ったとしても軽症ですませることができます。

生後6か月以上から接種できます。
6か月以上3歳未満は0.25mlを2～4週間隔で2回、3歳以上13歳未満は0.5mlを同間隔で2回、13歳以上は0.5mlを1回または1～4週間隔で2回接種します。
副作用のほとんどは接種部位の腫れ、かゆみで接種者の10-20%にみられます。
効果は接種後1か月くらいから発現し、4か月くらいまで持続するとされています。

治療

抗インフルエンザ薬(インフルエンザウイルスに直接作用し、ウイルスが増殖するのを防ぐ)が中心となります。

内服薬(商品名タミフル、同ゾフルーザ)、吸入薬(同リレンザ、同イナビル)、注射薬(同ラピアクタ)があり、年齢、症状によって使い分けられます。

ゾフルーザは1回内服、イナビルは1回吸入で治療が終わりますが、小児の場合嘔吐したり、うまく吸入できない場合もありますので注意が必要です。

他に漢方薬の麻黄湯がありますが、その効果は抗インフルエンザ作用というよりも患者の免疫能を調節することによると考えられています。

小児に用いる解熱剤は脳炎・脳症を引き起こす可能性のある薬剤(同ボルタレン、同ポンタール)は投与しないことになっており、用いる場合はアセトアミノフェン(同カロナール)が勧められています。



出席停止期間

発症後5日以上経過しており、かつ解熱後2日経過してから(小学校入学前の幼児は解熱後3日経過してから)となっています。
治療証明書が必要な場合はかかりつけの病院で書いてもらってください。

家庭での予防

外出時のマスク着用、帰宅後の手洗いとうがい、室内の加湿加温が有効です。
ぜひ実行しましょう。

～小児科の受付が、 1階総合受付に かわりました～

当院小児科の診療対象年齢は、
0歳から15歳（中学校卒業）までです。



診 察

発熱、せき、鼻水、嘔吐、下痢、
とびひやじんましんのような病気から、
医療連携をしている和医大や日赤医療センターに
ご紹介させていただく病気まで様々です。

診察時間は、午前8時30分からなので、登園・登校前のお子様も来院されて
います。

また、木曜日の午後も、通常通り診察をしています。
(ページ5の診療受付時間表をご参考ください。)

病気のお子様とご家族の疲労の軽減と感染予防のために、できるだけスムーズに、
医師の診察が受けられるように、待ち時間の短縮を心がけています。

「先生に聞くのを忘れてしまった!」「ちょっと看護師に聞いてみたい」など、
ご遠慮なく、声をおかけください。

予 防 接 種

近年、ワクチンの種類が増え生後2か月から、複数のワクチンを同時接種してい
ます。

ワクチンで防げる病気は適切な時期に予防接種ができるように、スケジュールを
立てています。

「予防接種の種類がいっぱいあるけど、どんな順番で接種すればいいの?」

「うちの子、接種していない予防接種はないかな?」など、不安な時は、母子手帳を
持参の上ご相談ください。

予防接種は、予約制になっています。来院時やお電話にて予約を承っています。

※平成31年4月に小学校入学のお子様(年長児)は、麻疹・風疹2期の定期接種の
期限が平成31年3月31日までです。一度お確かめください。

ス タ ッ プ

小児科は、4人のお母さん看護師が担当しています。

お母さんを置いて、「1番のり～!」とばかりに走ってくる子、入り口でこっそり
様子をうかがってくれる子、遠くから泣き声が聞こえている子、しんどくて椅子に
寝こんでしまう子…等来院時の様子もみんなそれぞれ。

その様子にも注意し、帰院までのお手伝いをしています。

病院は楽しいばかりのところではないので、不安や恐怖をもって来院される子供
たちも多いと思いますが、少しずつ病院の様子がわかってくると不安が安心に、
「自分で頑張る」という挑戦が自信に変わる瞬間を感じるたびに、私たちも大きな
刺激を受けます。

待合室でも、「おすわりをして遊べるようになって」「言葉が増えてきた」
「アンパンマンの表情の違いに気づくようになった」
「ちょっと反抗期かな」…と感ずることがあります。

地域の子供たちの健康と、ひとりひとり
それぞれのペースで発達、成長している様子
を見守っていく一員になれたらと思っています。



～血管外科だより～

平成30年4月から血管外科が新設され、担当スタッフ一同不慣れな部分もあり、患者様にはご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、手術を受けられた皆様は順調な経過をたどられております。

開設以来11月末時点で40人(55肢)の方が、下肢静脈瘤手術を受けられました。

担当外来看護師は初めての診察から術中・術後といった一連の流れに関わらせて頂いていることで、手術への不安や術後の経過等精神的援助にも携わっていきと考えています。

今回、下肢静脈瘤の手術を受けたおふたりの患者様にインタビューした内容をご紹介します。



- ・Uさん (50代女性 紀の川市在住)
- ・Yさん (60代女性 和歌山市在住)

Q1. 手術を受けるきっかけはなんでしたか？

Uさん：「以前から、足の血管の膨れが気になっていました。こちらの遠藤先生に診ていただいたら“下肢静脈瘤”だと診断されて・・・立ち仕事が多いのでよく足が疲れました。」

Yさん：「足がだるく歩くのも辛くなり、こむら返りも続きました。また、足がボコボコしていて人の目線が気になりスカートが穿けなかったです。」

Q2. 手術はどんな感じでしたか？

Uさん：「すごく緊張しました。だけど、スタッフの方々が優しく対応してくれたし、手術自体は眠っている間に済んだのであっという間でした。」

Yさん：「ずっと目は覚めていたけれど痛みも無くよかったです。先生、スタッフの皆さんの対応がよくリラックスできました。」

Q3. 手術を受けてその後の調子はいかがですか？

Uさん：「立ち仕事も、歩くのも疲れなくなりました。おかげで家族と一緒に東北の方に旅行にも出かけることが出来ました。本当に手術をしてよかったと思っています。」

Yさん：「今までビリビリ感がありました。手術後は痛みもだるさも無くなり仕事が出ています。人目を気にせずスカートも穿ける様になりました。」

「気になっていた足もきれいになり、スカートが穿けるようになった」というお言葉はスタッフにとってもうれしい限りです。

下肢静脈瘤は命に関わる病気ではありませんが、手術を受けることで日常生活における足のだるさ、就寝時の足のつり等個々に応じた症状の緩和につながります。

日々の生活がより快適に過ごせるようになる事をスタッフ一同願っております。

また、手術適応までに至らなかった場合でも「圧迫療法」を目的とした弾性ストッキングの調整も行っておりますので気になる方は、担当看護師や受付までお気軽に声をかけてください。



外来診療担当医師案内

平成31年1月現在

区 分		月	火	水	木	金	土
内 科	午前一診(9:00~)	※院 長	※山本 秀之	※武内真知子	※太田 明廣	※濱西 徹	太田 明廣 (第2・第4)
	午前二診(9:00~)	※遠藤 仁	※井畑 淳子	※小川 洋司	※川口 素世	※院 長	医 大
	夜間診察(17:00~)	太田 明廣	川口/武内 (隔週交替)	濱西 徹	遠藤 仁	院 長	
糖尿病専門外来	午前診察(9:00~)		井畑 淳子	※濱西 徹			
外科 血管外科	午前診察(9:00~)		遠藤 仁	遠藤 仁	遠藤 仁	遠藤 仁	
	午後診察(13:00~)	遠藤 仁	遠藤 仁	手術日	遠藤 仁		
整形外科	午前診察(9:00~)	山本 剛史	山本 剛史	山本 剛史	岡田 基弘	山本 剛史	山本/西 (第1・3・5)(第2・4)
	夜間診察(17:00~)		山本 剛史				
泌尿器科	午前診察(9:00~)	吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦 (第1・第3・第5)
	夜間診察(17:00~)				吉田 利彦		
眼 科	午前診察(9:00~)	○		○	住岡 孝吉	○	雑賀司珠也 ○
	午後診察(14:00~)		田中 才一 (黄斑外来)		手 術 日	石川 伸之	
乳腺外科	午前診察(9:00~)	西口 春香	西口 春香				
皮膚科	午前診察(9:00~) (受付は11:00まで)				神人 正寿		吉益 隆 (奇数週)
血液内科	午前診察(9:00~)					※医 大	
神経内科	午前診察(9:00~)		※医 大				
検 査	胃(内視鏡)	武内真知子	川口 素世	医 大	武内真知子	川口 素世	
	大腸(内視鏡)		○		○		
	腹部エコー	○	○	○	○	○	○
	心エコー	太田 明廣		太田 明廣	医 大 (13:00~15:00)	太田 明廣	

「※」印は基本的に予約制のため、予約優先となります。

小児科診療受付時間 担当医師/吉益 哲【日本小児科学会専門医】

診 療 受 付 時 間	月	火	水	木	金	土
8:30~11:30	○	○	○	○	○	○
15:00~16:00 ・予防接種(要予約)	○	○		○	○	
16:30~18:30	○	○		○	○	

医療法人 曙会 和歌浦中央病院

■編集発行 広報委員会 ■お問い合わせ先 総務課

〒641-0054 和歌山市塩屋6丁目2-70 TEL.073-444-1600

メールアドレス jimukyoku@wachuohp.or.jp

ホームページ

和歌浦中央病院

検索

医療法人 曙会 施設一覧

和歌浦中央病院

〒641-0054
和歌山市塩屋6丁目2番70号
電話：073（444）1600
FAX：073（441）3101

介護老人保健施設 和歌川苑

〒641-0055
和歌山市和歌川町5番44号
電話：073（446）2400
FAX：073（446）5100

訪問看護ステーション コスモス

〒641-0054
和歌山市塩屋6丁目2番70号
電話：073（448）2125
FAX：073（441）3105

居宅介護支援事業所 たんぽぽ

〒641-0054
和歌山市塩屋6丁目2番70号
電話：073（448）6022
FAX：073（448）5258

サービス付き高齢者向け住宅 あけぼの

〒641-0055
和歌山市和歌川町3番1号
電話：073（444）2800
FAX：073（444）3015



介護老人保健施設 和歌川苑

訪問看護ステーション コスモス

居宅介護支援事業所 たんぽぽ

理念 基本方針

地域の皆様から「親しまれ、信頼され、選んでいただける法人」を目指します。

- ・私たちは、患者さま利用者さまの立場に立ち、良質で安全な医療・介護・福祉の提供に努めます。
- ・私たちは、患者さま利用者さまの権利を尊重し、満足と納得いただける医療・介護・福祉の向上に貢献します。
- ・私たちは、地域の医療機関・介護福祉施設と連携し、地域住民皆さまの健康・福祉の向上に貢献いたします。
- ・私たちは、医療人・介護人・福祉人としての責任と自覚をもち、常に研鑽に励み、資質の向上に努めます。
- ・私たちは、和の心を大切に、一致協力して、安定した経営基盤を持つ、働きがいと誇りのもてる法人をめざします。